


I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	県立浪岡養護	学校
授業について	教科領域名 (<input checked="" type="checkbox"/> 又は <input checked="" type="checkbox"/> で 記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
	単元(題材)名	数学1 「正負の数」		
	単元(題材)の目標	正負の数の加法・減法の意味を、東西の移動をもとにして考えることができる。		
学習集団と実態	学部・学年・人数	中学	部	1 年 3 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	<ul style="list-style-type: none"> ・反復学習が苦手な生徒、文章読解が苦手な生徒、不登校傾向にあり学習空白がある生徒等、実態は様々であるが、既習の学習内容を活用して問題を解決しようとする姿勢が見られる。 ・視野障害及び難聴、右片麻痺を有する生徒や局限性学習症の生徒等、課題の提示等で配慮が必要である。 		
I C T 活用について	使用した支援機器・教材の名称	・電子黒板、パソコン、タブレット端末		
	使用したアプリケーションの名称	東京書籍 デジタルコンテンツ Dマーク		
	主な活用の用途 (<input checked="" type="checkbox"/> 又は <input checked="" type="checkbox"/> で 記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 (<input type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) <input type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援) <input type="checkbox"/> 実態把握支援		
	I C T 活用のねらい	数学的な意味や概念等を視覚的・動的に捉えることにより理解を深める。		
活用の状況と支援	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット上で数値を入れ替えることにより、反対向きの性質をもった数量を数直線上で確認することで、負の数の理解が深めることができた。 ・教科書のDマークをタブレットで読み取るだけで学習教材にアクセスできたので生徒たちだけでも操作が簡単にできた。また、数値を自分で入れ替えることができたので、いろいろな場合の正負の数量を視覚的に確認し、理解を深めることができた。 			